

## 2. 緒 言

このファイルは、東京工業大学工学院機械系における学士特定課題研究の報告書に使用するテンプレートで、1 行の文字数、1 ページの行数を初めとして、ほとんどの書式を「スタイル」として登録してある。

本文の文字数は、1 ページ当たり 50 文字× 46 行× 1 段組で 2300 字とする。また、文章の区切りには全角の読点「、」（カンマ）と句点「。」（ピリオド）を用いる。カッコも原則として全角とする。

本文中には MS 明朝と Times New Roman を使用し、章節項の見出しなどには MS ゴシックと Times New Roman（ボールド体）を使用する。

単位は  $I$

### 2・1 研究背景

$$\bar{C}(t) = \frac{1}{N} \sum_{s=1}^N C_f(t)s \quad (1)$$

ここに参考文献の引用の仕方を書いておきます。式 (1) (白井他, 2013) でのべたが先行研究 (Moreira et al., 2013) によると、(Matloff, 2012)

### 2・2 できそう

### 2・3 マスタコントローラ

### 2・4 先行研究

### 2・5 研究目的

### 2・6 本論文の構成

## 文 献

EORC, ALOS 解析プロジェクト, ALOS-2/PALSAR-2 サンプルプロダクト (校正済み) (2020), available from <[https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS-2/doc/sam\\_jindex.htm](https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS-2/doc/sam_jindex.htm)>, (参照日 2020 年 8 月 23 日).

Matloff, N., アート・オブ・R プログラミング, 大橋真也監訳, 木下哲也訳, Vol. 6 (2012), p.12-25, オライリージャパン, 東京.

Moreira, A., Prats-iraola, P., Younis, M., Krieger, G., Hajnsek, I., and Papathanassiou, K. P., SAR: synthetic aperture rader, iee Geoscience and remote sensinG maGazine, Vol. 6, No. 2 (2013), pp. 12–25.

大内和夫, リモートセンシングのための合成開口レーダの基礎 第二版 (2015).

白井大地, 武田史郎, 落合勝昭, 温室効果ガス排出規制の地域間 CGE 分析, 環境経済・政策研究, Vol. 6, No. 2 (2013), p.12–25, available from <<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019823794/>>.